

本会議における一般質問の議員1人の持ち時間は、答弁も含めて75分以内と決められています。



高橋さゆりが問う

「ない袖はふれないなんて言わないでね。」

老朽化した公共施設の方向性は

Q リリックおがわの管理棟は、改修工事中だが、大ホールは空調の故障が7月にもあった。早急に判断をすべきでは。

A 生涯学習課長 昭和57年開館以来機械もほぼ当時の状態です。部品等もメーカーの製造もされていません。改修費用や利用状況等を総合的に勘案し、慎重に方向性を定めていきたいと考えています。

Q 私は5年前にも同様の一般質問をしているが、町長が決断すべきではないか。町長 稼働率なども重要ですが、やはり「町の文化の拠点」として、期

限は申し上げられませんが、大改修も視野に入れて進めていきます。

Q パトリア内の食堂は4月から閉鎖になったが、今後の展開は。

A 長生き支援課長 業者の申請には至っていません。生きがいホール以外で、館内への飲食を認めての対応をしています。改めて食堂のあり方について方向性を検討します。

Q 学校給食センターは、学校給食のあり方検討委員会での方向性が出ているが、進捗状況は。

A 学校教育課長 平成29年度には、財源確保緊急対策本部会議において「学校給食の全面委託」という視点で協議されました。方向性の検討を行なっています。



「小川町の学校給食はおいしい」と評判で児童も楽しい時間です。



田中照子が問う

「可燃ごみの排出量はごみ分別収集開始以来約2.5倍に。」

ごみの減量化・資源化の推進を

Q 雑紙の出し方を明記した「ごみの減量化にご協力ください」というリーフレットを全戸配布したが、その成果は。

A 環境農林課長 可燃ごみは7月末までを昨年度と比較すると、町民1人1日当たりの排出量は29年度が451グラム、本年度が467グラムと増えています。また、雑紙が資源化に回る古紙類の回収についても、同期間におきまして昨年度が141.17トン、今年度が128.51トンと約12.7トンと減少し、成果は表れていません。さらに分かりやすく啓発していきます。

Q ごみの減量化には住民への呼びかけが大切。今後の具体的な取り組みは。

A 環境農林課長 10月の広報及び町ホームページでのPRを予定しています。また、行政区や各種団体より依頼があれば担当者による出前講座も可能です。

災害ごみへの対応は

Q 「災害廃棄物対策指針」に基づく「災害廃棄物処理計画」は市町村毎の計画だが町の計画は。また、小川地区衛生組合との関係は。

A 環境農林課長 計画は、災害による廃棄物の適正な処理を可能とすることを目的に年度内の完成に向けて策定しています。また、し尿を含め廃棄物を小川地区衛生組合で処理するための計画です。



燃えるごみの中には、資源となる雑紙が混入しています。



山口勝士が問う

「まずは観光でお金を稼ごう！」

町活性化の最重要課題に観光を

Q 観光は「小川町活性化の鍵」という基本的な考えは、町行政に根づき展開しているのか。

A にぎわい創出課長 観光協会の活性化や観光の拠点など、資源を充実させ、観光商業の推進体制を構築する必要があり感じています。「観光振興計画」を策定するに当たり、各種事業者や団体、住民や来訪者等に意見を聞きながら検討し、より具体的な計画づくりを進めていきます。

Q 5年たってもほとんど変わらない、進まない計画だとしたらつくる意味

がない。議会の場においても、提案や課題は出尽くしている。多くの観光客が訪れお金を使い、少しでも町が、住民の皆さんが「潤う」ことこそ、「振興」だ。「何をするか」「何が進むのか」それがはっきりと書かれた「観光振興計画」を早急につくってほしい。

A にぎわい創出課長 点在する観光資源の再活用や住民の皆さんの参画を図り、観光を振興するための計画にします。

「まちなか散歩ツアー」の充実を

Q さらに集客と回遊性を持たせ、観光が柱となるようにするためには。

A にぎわい創出課長 食事のできる場所、お土産・買い物場の充実を研究・模索していきたいです。



和紙体験学習センターを見学しているツアー客。

在宅医療をしてくれる医師。



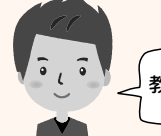
(A・Sさん・83歳)

お嫁さんになってくれる人。



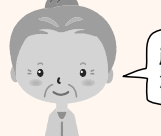
(Y・Yさん・66歳)

教育の充実と学力の向上。



(O・Hさん・28歳)

嵐山町のような桜堤があればいいね。



(T・Tさん・61歳)

Mini Column
オガワマチのことギカイのこと一緒に見よう、考えよう
「小川町に必要なもの」